

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 2 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370089

研究課題名(和文) 東アジア翻訳語ネットワークとナショナルヒストリーの形成に関する思想史的研究

研究課題名(英文) The study of formation Process about translation network in the early modern East Asia

研究代表者

桂島 宣弘 (KATSURAJIMA, Nobuhiro)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：10161093

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、この間従事してきた東アジアにおける近代学術知の形成、相互認識、ナショナルヒストリーの形成に関わる研究を土台として、東アジアとりわけ日中韓における近代史学史について、思想史的に解明しようとしたものである。具体的には明治日本におけるナショナルヒストリーの形成が、植民地朝鮮と中国・台湾(「満州」など)において、どのような作用・影響を与えたのかを実証的に解明し、その上で1945年以降の日本史学(日本思想史学)と朝鮮史学・中国史学などに横たわる認識枠の共通性と差異について、ポストコロニアル問題と結びつつ分析した。この結果、日中韓を横断した史学史の思想史的研究を現代的視点から明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study elucidated it about history of modern historical study of Japan, China and South Korea. Specifically, I elucidated it what kind of influence the formation of the National history of Meiji Japan had in Korea, China, Taiwan, Manchurian and analyzed it about a commonality and a difference to lie in Japan historical study (Japanese thought historical study) and Korea historical study, China historical study in after 1945.

研究分野：日本思想史

 キーワード：ナショナルヒストリー 翻訳語 東アジア 学術知 大学制度 植民地 ポストコロニアル トランス  
・ナショナルヒストリー

### 1. 研究開始当初の背景

平成 25 年度まで、研究代表者は科学研究費補助金を得て、18~19 世紀の東アジア思想空間における学術用語(日本漢語)=翻訳語の生成と自他認識の変容、東アジアにおけるナショナリズムの形成の研究に従事してきた。それらの成果は、拙著『自他認識の思想史 日本ナショナリズムの生成と東アジア』(有志舎、平成 20 年)、拙稿「トランスナショナル・ヒストリーという視座」(『新しい歴史学のために』277 号、平成 22 年)、「『近世帝国』の解体と十九世紀前半期の思想動向」(『日本思想史講座』3。ペリかん社、平成 24 年)、「日本思想史学の『作法』とその臨界」(岩波講座『日本の思想』1、平成 25 年)などとして公刊・公表してきた。幸いなことにこれらの論考は、韓国・中国でも注目され、拙著『東アジア自他認識の思想史』(ソウル論衡、平成 21 年)、拙稿「跨國界的歴史與東亞」(『台湾東亞文明研究學刊』第 9 刊第 1 期、平成 24 年、『南開日本研究』2012、平成 25 年)など、韓国語・中国語にも翻訳され、この結果、日本のみならずソウル大学校・高麗大学校・北京大学・南開大学・台湾大学等の研究者と日常的に議論、意見交換を行うネットワークを構築することができた。また、韓国の国史編纂委員会図書館、高麗大学校図書館、中国の北京大学図書館などで当該テーマに関わる史料収集に努め、そのデータ集積と紹介を行ってきた(一部については上記著書に掲載し、あるいは研究代表者のホームページでの公表を実施した。http://www.ritsumei.ac.jp/~katsura/)。これらの研究を通じて、中国(清)思想の展開とそれとの日韓のネットワークの構造、西洋思想とその翻訳の様相、近代以降における日本学術知の影響関係について、かなりの程度明らかにすることができた。とりわけ、『朝鮮史』編纂過程における日本側知識人の果たした役割、『朝鮮史』における近代実証主義の構造、歴史記述と植民地支配の関連については、包括的に明らかにすることができた。だが、この研究過程において、近代人文科学としての近代歴史学(日本思想史学)の日本における成立と、それが東アジアに及ぼす作用・影響について、さらに東アジア全域を射程に入れて解明する必要性を痛感するようになった。ことに植民地朝鮮や中国における歴史書編纂、満鉄調査部による学術調査などは、帝国日本を発生源とする近代学術知が中国、韓国において成立する基盤に深刻な影響・作用を及ぼしてきたにもかかわらず、現在に至るまでほとんど思想的に検討されていないといわなければならない。この問題を検討することは、戦後に至る学術知の継承の問題、すなわちポストコロナル問題を考えるためにも、重要なことであるといわなければならない。本研究は、こうした事情に鑑み、日本におけるナショナルヒストリーの成立とそれが朝鮮・中国で果たした役割について、研究代表者がこれ

まで行ってきた研究を土台に実証的に解明し、最終的にはトランスナショナル・ヒストリーの可能性についても検討しようとするものである。

### 2. 研究の目的

本研究は、申請者がこの十数年にわたって従事してきた東アジアにおける近代学術知の形成、相互認識に関する研究を土台として、東アジアとりわけ日中韓におけるナショナルヒストリーの形成について、思想的に解明しようとするものである。具体的には明治日本におけるナショナルヒストリーの形成が、東アジア、とりわけ植民地朝鮮と中国(「満州」など)において、どのような作用・影響を与えたのかを実証的に解明し、日本史学(日本思想史学)と朝鮮史学・中国史学などの相互の関連を、ポストコロナル問題と結びつけつつ分析することが研究目的となる。この意味では、未だほとんど進んでいない東アジア全域にわたる史学史的な研究を現代的視点から行おうとするものである。

### 3. 研究の方法

この研究のために用いられる方法は、日本思想史学の方法である。すなわち、文献史料に基づいて歴史認識・他者認識を克明に分析していく方法である。したがって、文献収集が研究の中心となったことはいままでのない。ただし、ネットワークや学術知の連鎖を重視する本研究では、学術制度・人脈・知識人の行動に関わる史料を収集することが不可欠であり、そのためには東アジアにおける現在の研究者間ネットワークを用いての情報交換・意見交換・研究会とシンポジウムの開催がより重要となってくる。したがって 4 に示したように 18 回にわたる日韓中の研究者による国際研究会が開催された。

### 4. 研究成果

本研究によって、この間急速に成果を挙げている韓国における植民地時代の思想研究の成果、日韓中(台湾)の比較思想史研究・韓国日本思想史研究、とりわけ漢陽大学校「植民地主義歴史学と帝国」研究会とも連携しながら、緊密な日韓中(台湾)の研究者ネットワークをより一層充実させながら、国際学術研究の中に徳川思想や近代日韓思想研究を位置づけていくことが実現した。具体的には、以下のように東アジア史学思想史研究会が開催され、韓国・中国・台湾の研究者から当該テーマに関わる研究報告が実現した。(1)2014 年 5 月 29 日/報告者(以下同)桂島宣弘(立命館大学)沈熙燦(立命館大学)(2)2015 年 10 月 3 日/青野正明(桃山学院大学)金泰勲(立命館大学)永岡崇(日本学術振興会 PD)(3)2015 年 11 月 6 日/韓錫政(韓国・東亜大学)裴貴得(立命館大学)張琳(立命館大学院)

(4)2015年11月21日/齋藤希史(東京大学)奈良勝司(立命館大学)松川雅信(日本学術振興会 DC1)

(5)2015年12月4日/金仙熙(韓国・仁荷大学)松本智也(日本学術振興会 DC1)朴海仙(日本学術振興会 DC2)

(6)2015年12月18日/権明娥(韓国・東亜大学)番匠健一(同志社大学)小路まき子(同志社大学)

(7)2016年1月8日/高永欄(韓国・高麗大学)朴炯振(韓国・成均館大学)姜文姫(韓国・成均館大学)

(8)2016年1月23日(国際シンポジウム)テーマ:東アジアの史学史を問う/尹海東(基調講演・韓国・漢陽大学)鄭多函(韓国・祥明大学)張信(韓国・歴史問題研究所)沈熙燦(立命館大学)佐藤太久磨(韓国・漢陽大学)吉田武弘(立命館大学)

(9)2016年1月27日/金映根(韓国・高麗大学)石原和(日本学術振興会 DC2)閔智焄(立命館大学)

(10)2016年1月29日/張世眞(韓国・翰林大学)富山仁貴(関西学院大学)

(11)2016年4月16日(特別シンポジウム)テーマ:尹健次『「在日」の精神史』(1~3)を読む/崔真碩(広島大学)鄭榮桓(明治学院大学)尹健次(神奈川大学)

(12)2016年5月21日/米谷匡史(東京外国語大学)洪宗郁(韓国・ソウル大学)車承棋(韓国・朝鮮大学)

(13)2016年6月27日/呉佩珍(台湾・政治大学)殷暁星(立命館大学)

(14)2016年7月16日/黄秉周(韓国・国史編纂委員会)原佑介(立命館大学)

(15)2016年9月13日/呉光輝(中国・厦門大学)松川雅信(日本学術振興会 DC1)

(16)2016年10月7日/呉炳守(韓国・東北亜歴史財団)黄薇姍(立命館大学院)石運(立命館大学院)

(17)2016年11月4日/朝井佐智子(愛知淑徳大学)朴海仙(日本学術振興会 DC2)大平真理子(立命館大学院)

(18)2016年12月9日/金坑(韓国・延世大学)黄鎬徳(韓国・成均館大学)尹健次(立命館大学)

また、韓国・中国を中心とする東アジアにおける当該研究に関わる版本・稿本などの収集・撮影に努め、一部はデータベース化している。(http://www.ritsumei.ac.jp/~katsura/)。今後は研究成果を取りまとめ、研究成果集以外にも日本・韓国・中国において単著・編著を公刊することとしている。なお、研究代表者は、2014年9月から2015年8月まで韓国・高麗大学校に客員教授として滞在し、史料蒐集に努めるとともに、5.に示された招聘講演を行って当該テーマの韓国での発信も行った。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

桂島宣弘、東亜文明圏中の日本思想、日本儒学(中国語)、深圳大学学报人民社会科学版、査読有、33-2号、2016、pp6-16

桂島宣弘、Japanese Nationalism and East Asia(英語)、Journal of Cultural Interaction in East Asia、査読有、5号、2014、pp3-13、

〔学会発表〕(計13件)

桂島宣弘、近代学術と植民地主義、「植民地主義歴史学と帝国」研究会、2016年3月25日、漢陽大学校、ソウル市(韓国)

桂島宣弘、近世帝国と琉球王朝の思想圏、民族文化研究院研究会、2016年2月26日、高麗大学校、ソウル市(韓国)

桂島宣弘、日韓関係の現状をどう考えるか、大韓日語日文学会、2015年11月14日、新羅大学校、釜山市(韓国)

桂島宣弘、徳川日本における「国境」の認識過程、韓国日本史学会、2015年9月19日、高麗大学校、ソウル市(韓国)

桂島宣弘、近代日本のアジア主義、東アジア共同体フォーラム、2015年8月3日、高麗大学校、ソウル市(韓国)

桂島宣弘、東アジア文明圏の中の日本思想・日本儒学、文明的対話と比較討論会、2015年7月4日、南開大学、天津市(中国)

桂島宣弘、日本ナショナリズムと東アジア、東亜地区師生共同研討会、2015年5月24日、台湾政治大学、台北市(台湾)

桂島宣弘、「病氣直し」とは何か、韓国宗教文化研究会、2015年5月16日、ソウル大学校、ソウル市(韓国)

桂島宣弘、「近世公共空間」の解体と幕末徳川思想の動向、東アジア次世代国際学術大会、2015年1月24日、立命館大学(京都府京都市)

桂島宣弘、トランスナショナル・ヒストリーのために、高麗大学校日本研究センター国際シンポジウム、2015年1月9~10日、高麗大学校、ソウル市(韓国)

桂島宣弘、前近代日韓の思想と公共性、漢陽大学校国際学術シンポジウム、2014年11月14日、漢陽大学校、ソウル市(韓国)

桂島宣弘、日韓関係と歴史認識、韓国日語日文学会、2014年10月25日、韓国外国語大学校、ソウル市(韓国)

桂島宣弘、近代日本における「子どもの発見」と東アジア、嘉泉大学校国際学術大会、2014年9月26日、嘉泉大学校、城南市(韓国)

〔図書〕(計4件)

桂島宣弘、金津日出美、留学生のための日本事情入門、文理閣、2017、159

桂島宣弘 金光清治他 5 名、金光教のリバイバルへ、金光教大阪センター、2016、150 (45-77)

桂島宣弘 林淳他 7 名、シリーズ日本人と宗教第 6 巻、春秋社、2015、269 (237-269)

桂島宣弘 張憲生他 17 名、東亜近世思想和思想の地平線 (中国語)、暨南大学出版社 (中国広州)、2014、348 (1-22)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
<http://www.ritsumei.ac.jp/~katsura/>

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

桂島 宣弘 (KATSURAJIMA, Nobuhiro)  
立命館大学・文学部・教授  
研究者番号：10161093

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

##### (4) 研究協力者

韓国・中国研究協力者 (研究報告・意見交換・情報交換など)

【韓国】

尹海東 (YUN Hae Dong 漢陽大学校)

李元範 (LEE Won Beom 東西大学校)

朴圭泰 (PARK Gyu Tae 漢陽大学校)

河宇鳳 (HA Woo Bong 全北大学校)

金津日出美 (KANAZU Hidemi 高麗大学校)

【中国】

龔穎 (GONG Ying 社会科学院哲学研究所)

郭連友 (GUO Lian You 北京外国語大学)

劉岳兵 (LIU Yue Bing 南開大学)

【台湾】

黃俊傑 (HUANG Chun Chieh 台湾大学)

徐興慶 (XU Shing Chin 台湾大学)